

## 特集：母の会（1）

「東洋英和女学院母の会の歩み—『全人教育』への祈りをこめて—」との題で「史料室だより」No.20が発行されたのは、創立100周年を1年後にひかえた1983年のことでした。全10頁にわたる母の会の大特集号で、執筆者の元中高部母の会会長木山房子氏が丹念に資料を調べ、母の会創設の目的や歩み、さまざまな活動について詳細にお纏め下さっています。その特集号から四半世紀が経とうとしています。そこで、今回は、母の会（父母の会）のここ20年の活動や現在の様子などを各部からお寄せいただきました。

## 東洋英和幼稚園母の会について

東洋英和幼稚園母の会は、幼稚園創立10年後の1924（大正13）年に組織された。以来、母の会はあらゆる面で幼稚園への協力を惜しまなかった。現在は日常的には役員が、また個々の活動では各グループのリーダーがまとめ役を担っている。役員は年長（5歳児）組と年少（4歳児）組からの12名で構成され（任期2年）、その中から会長、副会長が選ばれる。現在のグループの活動については、布の絵本・ハンドベル・手作りお菓子の会の3つにわけられる。布の絵本は（1986年～）タペストリーや人形を丹念に製作し、それを用いて公演を行う。新入園母子歓迎会と祖父母の会の公演に加えて、近年は子ども達が自由に人形と遊ぶ機会を設けている。ハンドベルは（1990年～）新入園母子歓迎会と祖父母の会、始業礼拝や終業礼拝で演奏している。また、子ども達がハンドベルに触れる機会も設けている。手作りお菓子の会は（1991年～）新入園母子歓迎会、祖父母の会、その他子ども達のおやつなどを作る。また、幼稚園内部でクッキーセールなどもしている。

母の会主催のバザーは変遷を経て、1987年から規模を縮小して「いちょうの木献金セール」となり、学院内外への献金を目的に行われている。出品は園児の家庭からの献品のほかに、母親達が時間をかけた針仕事から生まれた品物が中心である。保育中に行われるため、園児の安全面に配慮し、入場は学院関係者に限られている。

母の会とつぼみ会（聖書研究会）は、月に一度開催している。母の会では園長が園での

子ども達の様子や子育てについて話す。講師を招いての講演や担任教師による保育報告も行われ、時にはテーマにそって母親同士でのディスカッションも行われる。つぼみ会では学院内外から講師をお招きし、キリスト教について学びを深めている。

また子どもへのクリスマスプレゼント作りも継承されている。役員が材料を準備し、母親がわが子のために作る。物が溢れる時代、母親が心を込めて作ったプレゼントは子どもにとって大切な品となっている。

上記のように母の会と幼稚園の間には強い連帯があり、これからも一人ひとりのお母様に感謝しつつ共に育ちあっていきたい。

（佐藤奈緒 東洋英和幼稚園教諭・史料室委員）



2006年度クリスマス（手作りお菓子の会 クッキーハウス）



2005年度 新入園母子歓迎会



2005年度 祖父母の会（布の絵本）

## 振り返って

長野美登里

「おはようございます！」明るい笑顔と元気な声とともに、子どもたちはそれぞれのお部屋へ、私たち母親は2階のホールへ直行し、幼稚園の1日が始まります。

私が幼稚園母の会のお役をさせていただいておりました12年前は、折りしも東洋英和幼稚園創立80周年の年でした。当時の丹羽輝子園長先生はじめ諸先生方のご支援のもと、すでに3代前の母の会役員のお母様方を中心に80周年をお祝いするための準備が進められており、在園の母親まで5学年にわたるお母様たちが、心を合わせて協力し、さまざまな活動がなされました。母の会としては、従来の活動と80周年の活動が平行して行われましたので、大変充実した重みのある密度の濃い活動をさせていただきました。

当時の主な母の会活動は、牧師先生をお迎えして聖書の言葉を学ぶ「つぼみ会」、献品

や手作り作品を中心としたバザー「いちょうの木セール」、「ハンドベル演奏」、「手作りお菓子の会」、「レシピブックの会」、子どもたちへの「クリスマスプレゼント作り」などがございました。また80周年に向けての活動では、80年分の膨大な名簿・住所録の整理作成、80周年を記念した「音楽会」・「祝賀会」・「ホームカミング」などの準備、お手伝いに励みました。その一つ一つがかけがえない思い出となり、今、甦ってまいります。

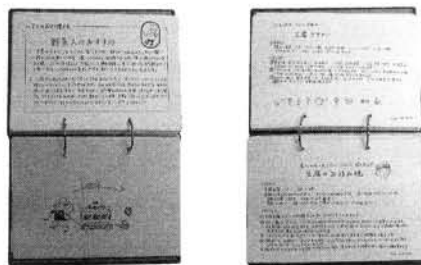
毎朝子どもと一緒に登園し、そのまま母親も園内で諸活動、ご奉仕をさせていただいた2年間の積み重ねの中で、母親同士の輪が広がるとともに絆も深まり、一人ひとりが自主的に、そして積極的に母の会活動に参加することができました。これらの数々の活動を通して奉仕する心、喜びを与えていただき、「敬神奉仕」の精神を親子ともども育むことができたのも、神さまのお導きによるものと信じております。

今回、この思い出を記す機会をお与えくださいました大伴栄子園長先生には、心より感謝申し上げます。

（1994年度幼稚園母の会会長）



創立80周年記念感謝の集い



レシピブック（1992年幼稚園母の会作成）より

## 大学付属かえで幼稚園父母の会活動について 森 高 ホサナ

### 創設の頃

かえで幼稚園は1973年に創設された当初から、「母の会」の活動を事務連絡や幼稚園の手伝いをしてもらうことを主とするのではなく、母親が自主的に運営、参加することを願ってきた。初年度は、まず「母の会」として始まり、幼稚園は幼児にとって教育の場であると同時に生活の場であり、家庭の延長であることが望ましいと考えた。

そこで、実践としては、園の教育方針や保育のあり方等の説明や理解を求めることが始められた。また、かえで幼稚園が創設された頃、たまプラーザは新しく出来た街であったので、人との関わりが少なく、母親が孤立しやすいことがあったので、園が母親相互の交流の場としての役割を果たすことが求められた。

### 「母の会」から「父母の会」へ

幼児の生活を考え、子どもの誕生日会には、母親がおやつを作るなど、創設の頃から、母親も保育に参加できる工夫をしてきた。そして、母親と同時に父親の子育てへの参加を願い、初年度発足した「母の会」は「父母の会」へと移行していった。そして、幼稚園から親に伝える場を保護者会とし、親の交流を主体にする場を「父母の会」として、設立3年目に分離した。

### 保護者の保育参加を願って

この地域は核家族がほとんどであるが、父親は非常に忙しく、月曜日から金曜日は子どもと関わる時間の少ない人が多い。そこで、父親の参加できるファミリーデー（運動会）を大学の校地で企画している。また、各学年で父親が保育に参加して、子どもと遊ぶ日を設けている。年長組になると、「ワークの日」（働く日）があり、年に4回土曜日を「ワー

クの日」とし、年に1回父親は子どもと一緒に園に来て午前中、庭にある大型遊具を作ったり、修理するなどの活動に参加している。子どもたちはその傍らで、釘打ちをやらせてもらったり、父親の働く姿を見て、力強さを感じる時となっている。父親はわが子を知るばかりか、子どもたちと触れ合う時となっている。2002年度からは「ワークの日」の昼食は母親や兄弟も合流して、園庭でバーベキューをしている。これは、地域で、家族同士の繋がりを深めるためでもある。地域での子育てを応援したいと考えている。

さらに、現在においては、育児不安を感じる母親が多いことを受け止めるために、2002年度より未就園児のための2歳児親子クラスを行っている。また、園児の親を対象に子育ての相談を受け止められるように、希望者が自主的に参加する「こひつじの会」を開催したり、希望する父母が保育に参加できる機会を積極的に考えている。

### 現在の父母の会の活動

父母の会の活動は、設立から現在に至るまで、園と並ぶ両輪の片方として、かえで幼稚園の保育を支え続けている。

各クラスから、役員が選ばれ10名が企画、運営にあっている。東洋英和女学院の後援会の役員は他に1名いる。

現在の主な活動を下記に述べる。

#### ルデア会

年に6回大学の宗教研主任陶山先生（1994年～2006年度まで）、元園長の土橋先生、近隣の教会の牧師先生を講師として迎え、聖書を通して学ぶ時を持っている。卒業した母親の参加も受け入れており、毎回40人から50人が参加している。



## 母の会とわたし

木口敬子

わたしは、1976年9月から1997年3月までの20年を小学部英語科で子ども達と楽しく過ごしました。“楽しく”と言いましたが、はじめの5年はただただ毎日の授業の取り組みと、通勤に四苦八苦して過ごし、一息ついた頃、母の会顧問と言う役をおおせ付かったのですが、授業をしながらのお役は名前だけのものでした。後に教務部から出された時間割には母の会の活動にあたることができるようにと2時間が配慮されました。

この度、史料室委員会から母の会について書くようにと依頼があったとき、わたしにはその資格はないとお伝えしました。唯一わたしに言えることは自分が関わった部分のみですとお話ししました。なにか手掛かりになることはないか、わたしは何をしてきたのだろうと、「ぎんなんだより」を取り出してページをめくって見ました。ところどころ写真や報告や記事を見ますと、あんなことこんなことと思いつくことは多くありましたが、それらをひとつひとつ書き出すことはできません。わたくしに今できることは20年を一まとめにくることしかできません。

さきにお話ししましたように“母の会の時間”が確保されてから初めて、まじめに委員会に出たり、担当部会に顔をだしたりできるようになりました。月1回の委員会は礼拝から始まり、部長先生と教頭先生が交替で奨励をされていました。教頭先生によっては部長先生にお任せされた場合もあったようです。20年英和にいて後半だけの中で、ただ一度だけ礼拝でお話しさせていただきました。丁度その月の番にあたっておられた教頭先生をたすけてあげたつもりです(!)。後に思ったことですが、このような機会がもう少しあってもよかったかななどと勝手に思っています。委員会前半の礼拝に続いて、各部の報告、総務部の報告、提案、企画事項などと続いて、残りの短い時間に懇談がもたれたようですが、

午前中の2時間のうちには全部を取り込んで話し合うには、短すぎたのではないかと思われました。

母の会担当の顧問教師は2人いて、担当部会を分け合っていました。厚生部、宗教部、編集部、クラス部で、わたしは宗教部と編集部に比較的多く関わりました。それぞれの部の詳細な活動はお母さんたちがなさることだったので、私は相談役の立場でお話しをうかがっていました。わたしが関わった宗教部には近隣の教会の牧師先生が顧問というかたちでおられ、月1回講堂で聖書の会がもたれ説教をされていました。年間のテーマを設けてお話しをされていたようです。多くのお母さん達が出席され、英和のキリスト教教育に関心や理解をもたれていることが分かりました。また、そこで初めてキリスト教に会われた方もあったのではないかと思います。わたしは委員会や部会に努めて参加しましたが、宗教部の顧問という立場でありながら、聖書の会に出たことはありません。待降節（アドヴェント）がはじまると、総務部を中心にクリスマス礼拝を必ず守りました。講壇を華やかにクリスマスカラーで飾り、礼拝での聖書朗読や、お祈り、司会などは宗教部のメンバーが分担して、顧問の牧師先生の説教でおこなわれました。礼拝後は食堂で祝会がもたれ、普段の聖書の会にも増す出席者があったようです。先生たちもこの会には招待されていましたが、終礼や掃除などがあってごく一部の教師しか参加できませんでした。どんな会を計画しても、いつもお母さん方は学校に相談を持ちかけられ、顧問の教師には詳細にわたる計画を話されていたのには頭がさがりました。どの部も同じですが、母の会委員になるということは、ひとりのお母さんにとっては前にも後にもただ1回のことなので、一所懸命なのです。わたしたち教師は、もしかするとまた関わるかもしれないという思いがありまし

た。ですから、どの部であっても役を引き受けられたお母さん方はどなたでも、不安なうちに1年の活動が始まり、満足感を得て1年の役を終えられるのだと思っていました。

“顧問”という枠を外すと、お母さん方もわたしも同じ母親ですから、部会後の雑談には大いに花が咲き、同じ思いで子育てしているなどよく思ったものです。

もうひとつの部でわたしが楽しくお手伝いできたのは、編集部でした。初めのうちは総務部が担当して「ぎんなんだより」ができていたようですが、いつ頃からか編集部として独立したはたらきになりました。年1回、後に2回の発行になりました。わたしの前の顧問の先生方は柄内先生や照屋先生という大先輩でした。初めのうちは「勝手にやってください」という感じでしたが、お母さんたちはまったくの白紙の状態に編集部員になられたことを知り、わたしにできるお手伝いをしなければならぬと思うようになりました。英和に奉職する前しばらく編集の仕事をしていたので、及ばずながらわたしにもできることがあるのではないかと、編集作業のごく一部ですが、お話しすることから始めました。まず、どんなテーマで、執筆はどなたにお願いするかという企画の段階に始まり、特

別寄稿のお願いなど、とても積極的に動き出された部員のお母さんもありました。集った原稿を一緒に読んだり、校正刷（ゲラ）にも一緒に手を入れたりするうち、だんだん形になっていく「ぎんなんだより」を見ながら、お母さんたちはわくわくされたのではないのでしょうか。前期は模索しながらすすめていった編集作業でしたが、後期になるとお母さんたちは自発的に作業をすすめられ、楽しく取り組んでおられたようです。お母さんたちと机をならべて作業しながら、教室では普段は見られない子どもさんの様子を見たり、記事をかかれたお母さんたちからは、その背後にある家庭の姿も見ることができて、わたしには授業では得ることができない恵みの時であったと思うことができるようになりました。そして、母の会委員のみならず、母の会会員であったことがすべてのお母さんたちにとって、小学部6年間に子どもたちと同じ恵みをいただかれたと信じております。どんな形であれ、小学部の教育に参画され、支えの一部になっていたのではないのでしょうか。母の会という場を通して多くの方々と交わりをわかち、賜物をいただかれたのではないかと思います。

(元小学部教諭)



『ぎんなんだより』の表紙 (No.2・No.30・No.34)

(中高部母の会については次号に掲載予定です。)

## 安井てつ先生の思い出

岩原 さかえ

私が英和に就職して2年目の春、安井先生が校長事務取扱としてこられた。当時74歳、背筋は真すぐ足腰はしゃんとして立派なものであったから、老人扱いにされることを極度に嫌われた。お顔はうりざね顔で目はぱっちりとして鼻筋が通り稀にみる美しいお年寄りだった。小柄な感じは愛らしかったが、男性的な雄弁で“ナントカしちまっちゃった。ナントカだわね”という歯切れのよい江戸弁を講壇から聞くのは珍しかった。常に黒の縮緬の羽織の下に盲縞の着物を召されて縹子の黒帯を締め、銀鎖の紐を時々手でまさぐっておられた。私は新入生の担任を仰せつかり、張切って国語の授業に精を出すとともに、幼稚科や初等科を経て進級した子と外部から入学した子との融和を考え、昼食の時“日々の糧かを与え給う恵みの御神はほむべきかな”という日曜学校讃美歌を斉唱させた。ところが、日本の家風に反すると教員会議の席上で叱られ“貴女はそれでも教育者か”と言われた。官学育ちの先生には理解できなかったようだ。

その頃教員食堂ではお弁当の“おかず”の交換が流行し、にぎやかだったが、或る日突然、先生の逆鱗にふれ“あんた達、おかずの交換なんて汚いこと止めて頂戴。不愉快だわね”と叱られ、悲しい幕引きとなった。先生は武士は食わねど高楊枝の家で育ったのだ。英和の廊下には卒業したての娘が嫁入り前の挨拶に訪れたり、母の会の役員が“あそばせ言葉”で群をなしたり、華やかな雰囲気が残っていた。ある日の全学講話で“この学校は非常時の緊張に欠けている。運動場に爆弾が落ちたら皆の目が覚めるだろう”と述べられた。先生は私に振り向いて“連合艦隊司令長官が戦死したって私はビクともしないわね。そんな事で日本は負けるものですか”とも言われた。会津若松城の娘子軍のように、先生は白髪あたまに鉢巻をして薙刀をかいこんで出陣めさるるか、と感嘆した。そのうちに日本は急速に敗戦への道を転下しはじめ、安井先生の出番はなくなった。

終戦の年の12月雪の日、私は突然先生からの呼び出しで、西荻窪の御自宅を訪れた。先生は骨折の再起不能の床におられた。先生を偶像視していた昔には戻れなかったが、狭い病室にねておられるお姿を見て、光栄に満ちた先生の晩年の苦しさ、そくそくと身にせまった。長野先生が運ぶ食糧で露命をつ

ないでおられ、プリンは天国の味がするとして特に好物だった由。先生は私に何をおっしゃりたかったのか。私は猫のように耳をピンと立てて聞いたが、先生はもたもたと口ごもっておられる。私はこの2年間、百姓に土下座してサツマイモを



買い、軍人監視の中で生徒と讃美歌を歌い、空襲の下を逃げ廻って死人を見、凄く強い人間に変わっていた。英和では師範科主任と女学部が仲悪く、双方で中傷合戦をしている事、先生の側近が忠義顔でいらざる御注進をして単純無垢の先生を混乱させている事も想像されたが、私は何も言わなかった。先生には明日がない。私は23歳、未来の方に関心があった。先生はそれからまもなく天国に召された。青山なを先生の名著『安井てつ伝』には書かれていない晩年のお姿はこれ以上は画けない。

(元高等女学科教員)

### 安井てつ先生略歴

- 1870年 2月23日東京駒込に生れる
- 1890年 高等師範学校女子師範科卒業。同校助教諭に就任
- 1892年 岩手県尋常師範学校訓導に就任
- 1896年 教育学及び家政学研究のため文部省より3年間の英国留学を命ぜられる
- 1900年 女子高等師範学校教授兼舎監に就任
- 1904年 バンコク府皇后女学校教育主任に就任
- 1907年 英国ウェールズ大学にて倫理学、英文学を研究(〜'08年)
- 1918年 東京女子大学開学にあたり同大学学監に就任
- 1923年 東京女子大学第2代学長に就任(〜'40年)
- 1941年 東洋永和女学校校長代理を務める(4月〜10月)
- 1942年 東洋永和女学校校長事務取扱に就任
- 1945年12月2日逝去(享年76歳)

## 〈資料紹介〉 11 母の会関係資料 (1)

### 「小学部母の会収集資料」について

保坂綾子

史料室には、さまざまな母の会関係資料が保管されています。東洋英和幼稚園母の会の記録（大正14～昭和32年）・「小学部母の会収集資料」・「東洋永和高等女学校母の会日誌」など、学院の歴史のなかで大切な役割を果たしてきた母の会の歩みや活動を知る上でたいへん貴重な資料も含まれています。今回はそのなかから、「小学部母の会収集資料」を紹介いたします。

史料室委員会の記録によりますと、委員会での検討を経て「小学部母の会収集資料」が小学部から史料室へと移管の決定がされたのは1987年の11月のことでした。明けて翌年、新年の史料室初仕事がこの資料の受け入れだったようです。移管された資料群にはリストが添えられていて、その冒頭部分には次のように、この資料の由来と移管の趣旨が端的に述べられています。

#### 資料移管のお知らせ

小学部母の会が創立90周年及び100周年にあたって強い熱意をもって精力的に収集展示された貴重な諸資料は、今まで小学部に保管され社会科授業等にも利用されてきましたが、この度小学部母の会のご諒諾をいただいて別紙リスト（1～3ページ）のとおり学院史料室に移管することになりました。これらは遠からず史料室に於て整備され、広く学院関係者への展示に供されることを願っています。

小学部母の会に感謝すると共に、学院各部にお知らせいたします。

1987年12月23日

小学部・史料室委員



宣教師の先生方（「小学部母の会収集資料」のひとつ。史料室入口付近で利用中）

こうした事情のなか移管された「小学部母の会収集資料」は、①創立90周年及び100周年展示資料であった額入りの写真59点、②創立100周年写真展示資料のパネル7枚に貼付された写真36点、合計95点の写真です。①は茶箱（縦43cm×横76cm×高さ26cm）2つに納められ、②のパネルは一括して丁寧に梱包されて大切に保管されました。

小学部母の会編集部が『ぎんなんだより』No.44（1993.10.1刊）にて「小学部母の会60年の歩み」を特集した折に①の写真が活用された事もありましたが、時間の経過とともに“知る人ぞ知る”資料となっていました。左記「お知らせ」中の「遠からず史料室に於て整備され、広く学院関係者への展示に供されることを」との願いに対しては、結果として今日まで長い時間をいただくことになりましたが、数度の移転を経て史料室が現在の本部・大学院棟に整備されたのを機会に、この「小学部母の会収集資料」を整理し学院の資料として再び活用させていただきます。

この資料のなかには、とても興味深い写真がありますので、ここでいくつかとり上げたいと思います。「収集資料」一覧（10頁）とあわせてご覧ください。

（史料室・史料室委員）



寄宿舎のサロンでのひととき〔7〕



人力車の先生〔10〕



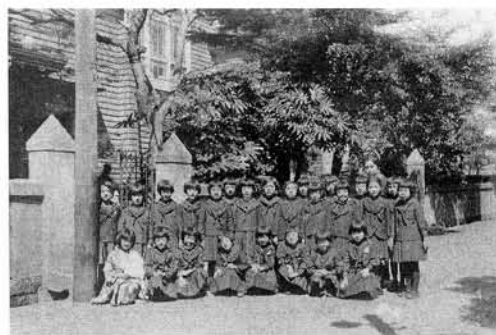
明治時代の寄宿舎生活を演じた舞台〔16〕



校庭で体操〔40〕



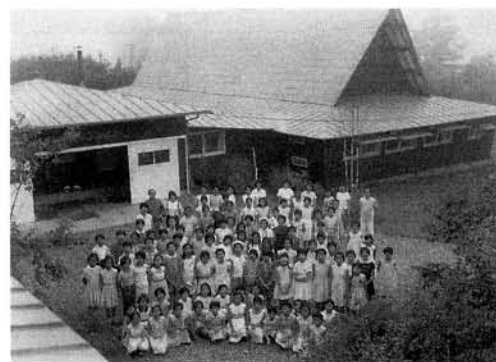
水泳訓練（野尻湖）〔41〕



麻布教会（注：現鳥居坂教会）前にて〔42〕



農家の稲刈りのお手伝い〔49〕



追分の朝（注：パネルNo.3 貼付写真のひとつ）〔77〕

※〔 〕内の数字は10頁一覧表中の（番号）と同じ

## 「小学部母の会収集資料」一覧

### ①創立90周年及び100周年展示資料(額入り写真59点)

(番号)	(写真タイトル)
1.	ミス・アルコン
2.	ミス・カートメルと明治初期の生徒たち
3.	開校届(明治17年10月18日)
4.	明治初期の生徒
5.	第1回卒業生
6.	上田保姆伝習所卒・西沢卯女さん
7.	寄宿舎のサロンでのひととき
8.	寄宿舎の楽しい食事
9.	寄宿舎洗濯風景
10.	人力車の先生
11.	明治20年の学校風景
12.	カナダの宣教師の先生方
13.	明治時代の卒業式
14.	宣教師の方々
15.	カナダの宣教師の先生方
16.	明治時代の寄宿舎生活を演じた舞台
17.	新校舎全景(明治33年築)
18.	明治後期の小学科全員
19.	開園時の園舎(明治40年頃)
20.	ブルックサイドコテージにて
21.	ミス・ブラックモアと大正時代の小学科
22.	幼稚園第1回卒業生と園長ミス・ブラックモア(大正4年)
23.	大正初期の卒業式
24.	宣教師と高等科生(大正5年)
25.	日光修学旅行(大正9年)
26.	大正後期の卒業生
27.	小学科5年の3学期頃 先生方とクラス全員(大正12年)
28.	永坂孤児ホームで亡くなった方の墓
30.	クリスマス聖劇(昭和3年)
31.	文芸会(劇一桃太郎)昭和3年
32.	現行の校服制定(昭和4年)
33.	卒業式記念写真(昭和4年)
34.	新校庭起工式 式辞校主 清水由松氏(昭和7年)
35.	東洋英和女学校卒業記念写真(昭和4年3月22日)
36.	旧校舎校門前
37.	ラジオ体操(昭和4年～8年頃)
39.	新校舎起工式 関係者並に教職員と生徒代表
40.	校庭で体操
41.	水泳訓練(野尻湖)
42.	鳥居坂教会の前で(昭和8年)
43.	校門
44.	お友達に髪をゆっていただく(昭和前期)
45.	生徒たちのお道具入れ(昭和前期)
46.	五年生に国語の時間(昭和前期)
47.	楽しい夕食のひととき(昭和前期)
48.	一日のはじまり(昭和前期)
49.	農家の稲刈りのお手伝い
50.	出流山分教場の門
51.	待ちこがれたお母様の面会日(昭和前期)
52.	中沢先生(昭和10年の秋)
53.	支那事変に慰問袋を送る(昭和12年)
54.	御真影奉戴式(昭和14年2月2日午後1時)
55.	小学科の社会科見学 戦艦陸奥船上にて(昭和15年)
56.	東大寺にて 櫻村先生と(昭和15年10月)
57.	戦争中 校外農園(花小金井)の農作業
58.	校外農園 脱穀する高等女学科生たち
59.	学徳労働腕章
60.	入学式(昭和19年)
61.	英語教科書(昭和20年)

### ②創立100周年写真展展示資料(パネルNo.1～7に貼付の写真36点)

(番号)	(写真タイトル)	(パネルNo.)
62.	花の日	パネルNo.1
63.	花の日	
64.	野尻湖の水泳	
65.	日光(昭和25年)	
66.	クリスマス・ページェント	
67.	クリスマス・ページェント	
68.	クリスマス・ページェント	パネルNo.2
69.	クリスマス・ページェント	
70.	感謝祭	
71.	65周年記念運動会	パネルNo.3
72.	65周年記念運動会	
73.	旧校舎のころ	
74.	小学部の先生方(昭和35年)	
75.	小学部の先生方(昭和48年)	パネルNo.4
76.	夏期学校	
77.	追分の朝	
78.	給食風景	
79.	授業風景	パネルNo.5
80.	新入生たち	
81.	クリスマスの時の先生方	
82.	卒業記念	パネルNo.6
83.	外国のお友達と一緒に	
84.	75周年の運動会	
85.	75周年の運動会	
86.	75周年の運動会	
87.	90周年記念学芸会	
88.	90周年記念学芸会	パネルNo.7
89.	90周年記念学芸会	
90.	90周年記念学芸会	
91.	90周年記念学芸会	
92.	夏期学校	パネルNo.7
93.	入学式(1980年代)	
94.	小羊会総会(1980年代)	
95.	卒業式(1980年代)	
96.	授業風景(1980年代)	
97.	学芸会(1980年代)	

\*この一覧は「小学部母の会収集資料」が史料室へ移管された際に添えられたリストをもとに作成し、原則として番号・タイトルはリストのままとした。なお、上記資料移管の際、当分は小学部保管とされた歴代校長・宣教師・院長・小学部長の大型写真があったようである。①の欠番(29・38)との関連は不明。



旧校舎校門前〔36〕

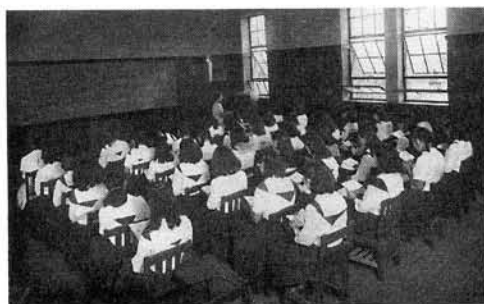
## 主な寄贈資料

- \* 『童謡は心のふるさと』（高等部卒川田正子著）／CD「心の歌 みかんの花咲く丘」（2枚組。川田正子歌手生活60周年記念）
- \* 『人生があなたを待っている 〈夜と霧〉を越えて』1・2（高等部卒赤坂桃子訳）
- \* 『生と死』第8号（東洋英和女学院大学人間科学科（死生学）修了生の会）
- \* 「戀の白蓮夫人」他、柳原白蓮関係資料
- \* 歌集『花のいのち』（高女科卒山下壽衛著）
- \* 『明治の結婚 明治の離婚』（湯沢雍彦著）／『百年前の家庭生活』（湯沢雍彦他著）
- \* 『英米演劇移入考 明治・大正・昭和』（高女科卒山下澄子著）
- \* 『パリ 映画とバレエに魅せられて』（高等部卒小張アキコ）
- \* 『山梨英和 礎のときを生きて』（山梨英和中高等学校同窓会山梨英和の歴史をたどる会）
- \* 『山梨県立文学館 館報』第67号（山梨県立文学館）
- \* 『東京の私学60年の歩み』『東京父母の会40年の歩み』
- \* 「井上円了とその家族」（三浦節夫／『東洋大学井上円了センター年報』vol.15抜刷）
- \* 『翼誌』（日本大学資料館設置準備室）
- \* 『同志社女子大学寮の100年（同志社女子大学史料室叢書Ⅰ）』
- \* 『日本大学百年史 第5巻（年表・索引編）』
- \* 「東海大学学園史ニュース」第1号
- \* 「京都大学大学文書館だより」No.11
- \* 「史料室だより」第12号（恵泉女学園史料室）
- \* 「大学アーカイヴズ」No.35／『研究叢書』第7号（全国大学史資料協議会東日本部会）
- \* 「関東学院学院史資料室ニュース・レター」No.9
- \* 「学院資料」vol.21（神戸女学院史料室）
- \* 『宮城学院 目で見る120年』
- \* 「全国大学史資料協議会西日本部会会報」No.21
- \* 『大正デモクラシーと東北学院一杉山元治郎と鈴木義男』
- \* 『小さき者への大きな愛 広島女学院ゲーンズ幼稚園の歴史とM.クックの貢献』／

## 『広島女学院この10年の歩み』

- \* 『九州ルーテル学院80年誌』
- \* 『松山東雲学園 創立120周年記念誌』
- \* 『渡辺学園百二十五年史一現状と歩み一』
- \* DVD「ピアノ科120周年記念音楽会」

◎収集資料（岩原さかえ先生所持の写真アルバム）より



音楽の授業風景（高女科5年2組、1947年）



創立65周年文芸会「ゴルゴダの丘」第1幕ベタニアのマルタの家

## 購入資料

- \* 『ここ過ぎて一白秋と三人の妻一』（瀬戸内晴美著）
- \* 『はじまりの死生学—「ある」ことと「気づく」こと』／『人生の危機における人間像』（元本学教授平山正実著）
- \* “The Cross in the Dark Valley The Canadian Protestant Missionary Movement in the Japanese Empire,1931-1945” (A. Hamish Ion)
- \* 『短歌研究』20-3（片山廣子関係）